

水俣からの告発

生 き る 証

(水俣病胎児性者患者 田中実子さん18歳)

許されてはならない事が歴史の裏側で許されてきた。生れおちた時から自分で何ひとつ出来ない生活、いつも黙って座っているだけの実子さんの生活。それでも生きる証に人間の世界に心を通わせようとするのだが……。これまで何十回何百回と患者は発言してきた。企業の責任に対して。その都度、ふみにじられてきた。2月23日大石環境庁庁長官と沢田熊本県知事の立ち合いのもとに、ようやく会社側との自主交渉は開かれる事になった。2カ月以上にも及ぶ長い座り込みのあとに。

(チッソノ ファンサイノ 闘争ノ 勝利ノ)

明治41年水俣に操業を開始して以来、チッソは、日本の重化学工業の常に先端を切ってきた。昭和7年、アセトアルデヒドの生産を開始。多量の水銀を含むアセトアルデヒド工場排水は、実に34年間、昭和41年まで水俣湾にたれ流された。魚は汚染され、鳥は死に猫も狂いそして海に生きる人間も、次々に水銀に犯されていった。かつて海に生きた屈強の男に海から聞こえてくるものは、むなしく死んでいった人間の声なき声だろうか。

(水俣病患者 坂本留次76歳)

昭和30年頃発病。にもかかわらず去年の12月ようやく認定された。15年以上にも及ぶ苦痛の代償は空白のまま。

(2月23日 自主交渉環境庁)

社長 現在認定になっております患者さんが約180名おられまして、そのうち89名の方々とは和解が成立……。

佐藤さん 患者は泣きのんどっとですよ、知っとっとですか……。

柳田さん 一任派の人が証書もってきまして、これでは生活できないから、がんばって下さい……。

川本さん 水俣になんばしてきたかな。あんたどもは。患者の発病した原点にかえるかな……。

田中さん それだけ、あんたたちは、水俣病家族をばかにしとる証撫ですよ。

社長 現在、和解しておられる方々に差し上げる補償と同じ額を……。

佐藤さん 社長、この話はもう何十日間も聞いて……。

柳田さん 社長さん、何カ月かかっととですか。あんたたちは何カ月でも、私達は何十年ですよ。

患者のたつての願いで、大石長官は、患者の苦しみを視察するため水俣を訪れた。

水俣の海に面したリハビリテーションに胎児性患者を含めて11人の患者がその病氣と闘っている。

大石長官の眼に焼きつけられていくそれぞれの重荷を背負う患者や家族の顔。

(浜本さん)

私の親は、板みたいになって死んでいきました。それを考えると、補償金をどうやって使えましょ。親の体を切って使うのと同じです……。

水俣の海に沈んでいった多くの生命や家庭や青春。

(水俣病胎児性患者 坂本しのぶさん15歳)

彼女の青春もまた、浮かびあがることはない。しかし、楽しそうな表情を浮かべて明日を歩む。生き残った患者は一切を抱えて、明日を歩む。生きる証に。